

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>本専攻では、本学の定める修業年限以上を学し、「スポーツ科学領域」（スポーツ教育学分野、スポーツ科学分野、スポーツマネジメント学分野）に関連する能力・資質を備えた上で、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受け、修士論文の審査および最終試験に合格した者に対し、研究科委員会の意見を聴いて学長が課程修了を認定し、修士（スポーツ科学）の学位を授与します。</p> <p>また、「健康科学領域」（健康科学分野）に関連する能力・資質を備えた上で、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受け、修士論文の審査および最終試験に合格した者に対し、研究科委員会の意見を聴いて学長が課程修了を認定し、修士（健康科学）の学位を授与します。</p>		<p>本専攻は、ディプロマ・ポリシーを達成するために、修士（スポーツ科学）の学位を取得しようとする者は、「共通科目」と主としてスポーツ科学領域に関連する「スポーツ教育学分野」、「スポーツ科学分野」及び「スポーツマネジメント学分野」で開講する特論、演習、実習を通して「知識・理解」、「技能・表現」、「思考・判断」、「態度・志向性」を身につけ、「論文作成研究科目」では修士論文の作成に向けた研究計画立案、予備実験・調査、本実験・調査などの研究活動ができる学年積み上げ方式の教育課程を編成します。</p> <p>修士（健康科学）の学位を取得しようとする者は、「共通科目」と主として健康科学領域に関連する「健康科学分野」で開講する特論、演習、実習を通して「知識・理解」、「技能・表現」、「思考・判断」、「態度・志向性」を身につけ、「論文作成研究科目」では修士論文の作成に向けた研究計画立案、予備実験・調査、本実験・調査などの研究活動ができる学年積み上げ方式の教育課程を編成します。</p> <p>また、学生が主体的に考える力を養うためのアクティブラーニングと課題によって能動的に学修する態度を養い、より高度な専門的知識を活かした研究活動と論文作成へと繋げていきます。</p> <p>1. 「共通科目」は本専攻の基盤科目に相当します。「健康・スポーツ科学研究法」では、研究のプロセス、統計手法および研究スタイルについて解説し、修士論文を作成するための基礎的知識を学びます。さらに、「身体運動評価学実習」では健康・スポーツ科学の現場に必要な身体運動の見方・考え方を学び、種々の実習を通して身体運動の量的・質的評価についての理解を深めます。</p> <p>2. 「スポーツ教育学分野科目」は、健康教育およびスポーツ教育についての専門知識を高め、高い指導力を有した教育のスペシャリストを養成するための科目区分です。</p> <p>3. 「スポーツ科学分野科目」はスポーツ文化学、健康行動科学、コーチング、レジャー・レクリエーションの専門知識を高め、高い指導力を有した運動指導者のスペシャリストの養成、またスポーツ動作、技術、心理および体力について科学的手法を用いて分析・評価を行い、競技種目特性に応じた適切なトレーニングプログラムやコンディショニングプログラムを立案・指導できるスペシャリストを養成するための科目区分です。</p> <p>4. 「スポーツマネジメント学分野科目」は、経営学、マーケティング論、イベント学などの専門知識を高め、スポーツイベントの企画・運営、スポーツ組織の戦略と財務、スポーツによる社会課題解決などを立案・実践できるスポーツマネジメントのスペシャリストを養成するための科目区分です。</p> <p>5. 「健康科学分野科目」は医学、理学療法学、健康科学などの専門知識を高め、問題解決能力と研究能力を有した健康をサポートできるスペシャリストを養成するための科目区分です。</p> <p>6. 「論文作成研究科目」では、修士論文の作成準備に必要な内容を含んだ「課題研究Ⅰ」と関連する最新情報を交えて論理的な思考で論文作成に導く「課題研究Ⅱ」を設けています。</p> <p>なお、本専攻で掲げたディプロマ・ポリシー達成の評価は、学位論文審査要件（学術雑誌への投稿または学会発表）と修士論文をもって総合的にを行います。</p>	<p>本専攻修士課程は「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識や技能、意欲を備えた人を求めます。</p> <p>本専攻では、健康・スポーツを科学的・専門的に学ぼうとする意欲を持ち、①幅広い年齢層における疾病の一次予防を目的とした運動処方や二次予防として種々の病態に相応しい運動療法について、高度な医科学的知識に加えて行動科学的なアプローチに精通しようとする健康運動指導士や健康運動実践指導者、さらに管理栄養士などの資格を有する者、②より専門的な科学的理論に裏付けられた運動発達のプロセスやトレーニングの原則、スポーツ傷害の予防および回復に関する高度な医科学的知識と能力を兼ね備え、体育授業やスポーツ行事、運動部活動などの指導をしようとする保健体育教員の資格を有する者、③健康や体力、スポーツトレーニングに関する知識と能力を兼ね備え、リハビリテーションを通して臨床現場や地域社会で高い問題解決能力と技術を用いて指導的役割を担おうとするリハビリテーション専門職種の資格を有する者、さらにスポーツ関連の企業や団体、スポーツイベントの企画・運営などのスポーツビジネス分野で活躍しようとする者を受け入れます。</p>
1. 知識・理解	1-1	欧米の論文を読んで研究の知識を深め、最新の情報を得ることができる。	
	1-2	修士論文の作成に不可欠な「研究のプロセス」、「統計手法」および「研究スタイル」に関する基礎的知識を得ることができる。	
	1-3	（スポーツ教育学分野） 体育授業・教科外体育・運動部活動などの学校体育、ないしは地域社会の健康・スポーツ教育における実践課題を構造的に理解し、課題解決のための教育的原則、あるいは実践的方法論を幅広く理解できる。	
	1-4	（スポーツ科学分野） スポーツに関わる諸問題を社会学、文化人類学、歴史学等の方法によって理解できる。また、健康問題を行動科学的学問領域から探求することができる。また、幅広い年齢層における一次予防を目的とした運動処方や現代社会において要請度の高いフィジカル・レクリエーションに関する課題を探求することができる。さらに、高度な医科学的知識や競技力向上のための優れたコーチングとスポーツ生理学・バイオメカニクス・心理学等の科学的なトレーニング理論が理解できる。	
	1-5	（スポーツマネジメント学分野） 人文・社会科学諸領域の学術的知見に基づき、健康・スポーツに関連するマネジメント現象を総合的かつ批判的に理解できる。また、それらを基盤としてスポーツビジネスにおけるイノベーションやスポーツを通じた地域活性化など、スポーツマネジメントの現代的な領域の研究に対応できる知識を身につけている。	
	1-6	（健康科学分野） 健康科学分野に関連する諸問題を学術的知見に基づき、総合的に理解できるようになる。また、それらを基盤として基礎的研究から臨床的应用へと幅広い研究に対応できる知識を身につけている。	
2. 技能・表現	2-1	学校教育現場もしくは地域における健康・スポーツ教育の課題を設定してデータを収集・解析する技能、ICTを活用して自らの実践現場において実際に指導することのできる技能を身につけている。	
	2-2	安全に運動を実施するための運動負荷試験をはじめ効果的な運動プログラムが作成できるようになる。また、身体活動およびストレス・マネジメントなどの健康行動科学に関連する実験・調査と適切な統計処理ができるようになる。さらに、レジャー・レクリエーションの研究で多く用いられる調査・分析方法を身につけている。	
	2-3	スポーツ競技における種々の動作分析とデータの数理的解釈ができ、スポーツの傷害予防や競技力向上のための研究に貢献する思考・技術を身につける。さらに、スポーツの適切なコーチングを推進するための目標・課題の設定法を理解し、問題解決手段や計画立案法および効果的なコーチングの実践能力を身につけている。	
	2-4	スポーツイベントの企画・運営、スポーツ組織における戦略策定、地域社会やビジネスにおけるマーケティング・リサーチ、スポーツ組織の経営分析や財務分析など、スポーツマネジメントに関連する現代的な課題領域の解決に資する分析技術や実践能力を身につけている。	
	2-5	健康科学的評価と介入に関する技術を習得し、さらに客観的データに対する統計処理ができる。	
3. 思考・判断	3-1	研究テーマを絞り込んだ社会的背景と研究課題の成果を合理的かつ論理的に思考することができる。	
	3-2	研究課題を解決するための実験・調査の条件を計画的に立案することができ、得られた結果を論理的思考で整理・説明することができる。	
4. 態度・志向性	4-1	本研究科では、学校教育現場、スポーツ競技選手をはじめ身体機能障害および身体機能回復に関する人、さらにスポーツビジネスの対象となる消費者を対象とした研究を推進している。そのため、人を思いやり、人の立場に立つて物事を考えることができる高い倫理観に支えられた規律のある態度で研究に臨み、それぞれの研究目標の実現に向け、主体的・論理的・実行力をもって努力することができる。	
	4-2	動物実験を伴う生命科学系研究は、人の健康・福祉、さらに先端医療の発展などにおいて必要な手段である。本研究科では「武庫川女子大学動物実験規程」を遵守し、動物実験の適正な運用のもとで研究に臨むことができる。	